



プレゼンス検出

- [使用例の概要 \(1 ページ\)](#)
- [プレゼンス検出の構成 \(1 ページ\)](#)

使用例の概要

プレゼンス検出は、デスク、部屋、オフィスの占有状態のライブデータを管理および監視するのに使用できるタイプのユースケースです。また、スケーラブルで合理化されたオンボーディングプロセスを備えた新しい占有状態センサーを追加し、スペースが一定期間占有されたときにチームメンバーにすばやく通知するルールを作成することもできます。インポートしたマップにセンサーを手動で配置することもできます。

このユースケースは、次のことに役立ちます。

- データログルールを作成することにより、スペース使用率に関する洞察を得る
- マップを活用して、ライブのスペース占有状況をすばやく確認する
- 過去の占有データを施設チームメンバーと共有する
- スペースが空いたときに通知するルールを設定する

このタイプのユースケースでは、次のセンサーがサポートされています。

- パッシブ赤外線センサー (PIR)
- Meraki カメラ

プレゼンス検出の構成

このタスクでは、プレゼンス検出のユースケースを設定する方法を示します。この設定により、物理スペースのステータス（使用中など）をリアルタイムで把握できます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Spaces で、**IoT Explorer** アプリタイルをクリックします。
- ステップ 2** [Presence Detection] をクリックします。
- ステップ 3** [Get Started] をクリックします。
- ステップ 4** [Use Case Name] フィールドに、ユースケースの名前を入力します。
- ステップ 5** [Description] フィールドに、ユースケースの説明を入力します。
- ステップ 6** [Create Use Case] をクリックします。
プレゼンス検出のユースケースを、アセットの管理、ルールの設定、ユーザーの追加を行うためのさまざまなオプションを使用して作成しました。
- ステップ 7** IoT Explorer : [Active Use Cases] から、新しく作成されたプレゼンスのユースケースを選択します。
- ステップ 8** このユースケースに人感センサー（物理的な場所で利用可能）を追加します。センサーは個別に追加したり、一括で追加したり、Cisco Spaces にオンボードされたセンサーから追加したりできます。[Sensor](#)を参照してください。
- ステップ 9** このユースケースにアクセスできるユーザーを追加し、必要に応じてカスタムユーザーロールを追加します。[ユーザーとユーザーロールとは](#)を参照してください
- ステップ 10** 次のいずれかが発生したときにチームにすばやく通知できる [Rules] を設定します。
- [Presence Detected] : スペースを監視し、誰かがスペースを占有したときにイベントをトリガーします。
 - [Presence Not Detected] : スペースを監視し、スペースが解放されたときにイベントをトリガーします。
 - [Sensor Not Heard] : センサーが指定された間隔の間、検知されなかった場合にイベントをトリガーします。
- ステップ 11** イベントをトリガーする条件を設定します。[ユースケースのルールを作成](#)を参照してください
-

[Occupancy View] タブのフロアマップ画像から、占有スペースと非占有スペースを追跡できるようになりました。[Sensors] タブから、関連付けられているセンサーの名前またはロケーションを使用してスペースを検索することもできます。設定したルールによってイベントがトリガーされると、それらのルールを [Events] タブで確認できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。